

# 令和5年度(2023年度) 事業報告



## I. 京都教育大学環境教育実践センター一年譜

令和5年

- 1月17日 京都市教育委員会「生き方探究・チャレンジ体験」推進事業  
京都市立東山泉小中学校2年生受入（1月20日まで4日間）
- 1月23日 京都市教育委員会「生き方探究・チャレンジ体験」推進事業  
京都市立開晴小中学校2年生受入（1月27日まで5日間）
- 2月14日 高大連携事業「大学教員による、高校生のための専門講座体験」  
「植物の栽培化から新育種技術（NBT）まで」
- 2月28日 京都市教育委員会「生き方探究・チャレンジ体験」推進事業 次年度打合せ
- 3月 8日 京都教育大学附属幼稚園「栽培体験学習」始まる
- 3月15日 京都市環境保全活動推進協会によるオレンジプロジェクトの支援 打合せ
- 4月26日 公開講座「農園芸活動支援ボランティア養成・春講座」始まる  
（7月19日まで全5回）
- 4月30日 公開講座「いろいろな野菜を育てて、食の大切さを学ぶ講座」始まる  
（11月26日まで全7回）
- 4月30日 公開講座「幼稚園・保育園での草花・野菜の栽培のための実技講座」始まる  
（11月26日まで全7回）
- 5月11日 スタートアップセミナー「農場体験実習」始まる（6月26日まで9専攻）
- 5月23日 京都市教育委員会「生き方探究・チャレンジ体験」推進事業  
京都市立西ノ京中学校2年生受入（5月26日まで4日間）
- 5月29日 環境教育実践センター第1回所員会 於 1号館共通会議室
- 6月 6日 京都市環境保全活動推進協会によるオレンジプロジェクトの支援（土づくり）
- 6月 7日 京都市教育委員会「生き方探究・チャレンジ体験」推進事業  
京都市立向島東中学校2年生受入（6月9日まで3日間）
- 6月 9日 近隣幼稚園等によるジャガイモ収穫体験始まる（6月29日まで）
- 8月 8日 中京・花とみどりの会によるミツバチ採蜜体験
- 9月13日 公開講座「農園芸活動支援ボランティア養成・秋講座」始まる  
（11月29日まで全5回）
- 10月13日 近隣幼稚園等によるサツマイモ収穫体験始まる（10月27日まで）
- 10月30日 京都市教育委員会「生き方探究・チャレンジ体験」推進事業  
京都市立藤森中学校2年生受入（11月2日まで4日間）
- 11月 3日 公開講演会（講師 西田佐知子 名古屋大学大学院環境学研究科 准教授）
- 11月 7日 第57回近畿地区教育系大学農場等協議会 於 京都教育大学
- 11月 7日 京都市教育委員会「生き方探究・チャレンジ体験」推進事業  
京都市立桃山中学校2年生受入（11月10日まで4日間）
- 11月13日 公開講演会（講師 山内淳 京都市環境保全活動推進協会環境教育推進室）
- 11月21日 環境教育研究年報第32号編集委員会 於 1号館共通会議室
- 11月22日 公開講演会（講師 松村篤 大阪公立大学農学研究科 講師）
- 12月26日 環境教育実践センター第2回所員会 於 1号館共通会議室

## II. 公開講座の実施

本センターでは開故事業の中心的存在のひとつとして公開講座を位置づけており、令和5年度（2023年度）は4つの講座を実施した。

### 1. 「いろいろな野菜を育てて、食の大切さを学ぶ講座」

#### (1) 内容

食の大切さが叫ばれる一方で、食べ物がどのように作られているかを身近に知る機会は少なくなっているように思う。この講座では親子で様々な野菜を栽培し、植物の成長を身近に感じ、収穫するまでの大変さを知って、今後の食生活について考えてもらう機会を提供する。

#### (2) 受講者

小学生とその保護者 4組（8名）

#### (3) 会場

本学 環境教育実践センター

#### (4) 講座日程と講師

回	日程	テーマと講師
1	4月30日	畑の準備とスイートコーンの種播き、サトイモの植付け 本学教授 南山泰宏
2	5月21日	スイートコーンの間引き、サトイモの管理、ミニトマトの挿芽 本学教授 南山泰宏
3	6月11日	スイートコーンとサトイモの土寄せ、ミニトマトの鉢上げ 本学教授 南山泰宏
4	7月23日	スイートコーンの収穫、ニンジンの種播き 本学教授 南山泰宏
5	10月15日	野菜畑の準備と葉根菜類の種播き、ピーナッツの収穫 本学教授 南山泰宏
6	10月29日	サトイモの収穫、葉根菜類の間引き、テッポウユリの繁殖 本学教授 南山泰宏
7	11月26日	葉根菜類の収穫、ヒヤシンスの水栽培 本学教授 南山泰宏

#### (5) 講座の概要

- 第1回 講座当日は雨天のため畑にスイートコーンの播種ができなかった。そのため、スイートコーンはセルトレーに種を播いた。事前に芽出したサトイモは「土垂」と「唐芋」の2品種を1人1株ずつ1条植えて畑に植え付けた。
- 第2回 事前に畑に播種したスイートコーンの間引きと、セルトレー苗を用いて補植を行った。その後、追肥と土寄せ作業を行った。畑に植えられたミニトマトからわき芽を取って来て、パーミキュライトの入った育苗トレーに芽挿しを行った。
- 第3回 スイートコーンとサトイモに追肥と土寄せを行った。前回に芽挿ししたミニトマトを掘り上げて、根が出ている株を鉢上げし自宅での栽培用に持って帰ってもらった。
- 第4回 栽培してきたスイートコーンの収穫を行った。ニンジン2品種（西洋ニンジンと金時ニンジン）を畑に直接種を播いた。サトイモに追肥と土寄せを行った。
- 第5回 ひとり約2㎡の畑の畝を整地し、化学肥料を施用後、コマツナとホウレンソウとカブの種播きをした。ピーナッツの収穫を行った。
- 第6回 テッポウユリの鱗片に切り込みを入れて、ポリエチレン袋とパーミキュライトを用いた簡単な鱗片培養を行った。前回播種した野菜の観察と間引きを行った。4月から栽培してきたサトイモを収穫した。

第7回 10月から栽培したコマツナ、ホウレンソウ、カブを収穫した。7月に種まきしたニンジンも収穫した。ヒヤシンスの水栽培用にペットボトルで容器を作成し、自宅での栽培用に持って帰ってもらった。

## 2. 「幼稚園・保育園での草花・野菜の栽培のための実技講座」

### (1) 内容

多くの幼稚園、保育園ではいろいろな草花や野菜などを育てていると思われるが、うまく育たなくてあきらめてしまうといったことはないだろうか。園での植物の栽培をより充実したものにするために、栽培技術の向上を目的とした簡単な講義と栽培実習を行った。

### (2) 受講者

幼稚園教諭・保育士 9名

### (3) 会場

本学 環境教育実践センター

### (4) 講座日程と講師

回	日程	テーマと講師
1	4月30日	畑の準備とスイートコーンの種播き、草花の育苗 本学教授 南山泰宏
2	5月21日	スイートコーンの間引き、培養土づくりと花苗の鉢上げ 本学教授 南山泰宏
3	6月11日	スイートコーンの追肥と土寄せ、樹木等の挿し木 本学教授 南山泰宏
4	7月23日	スイートコーンの収穫、挿し木の鉢上げ 本学教授 南山泰宏
5	10月15日	野菜畑の準備と葉根菜類の種播き、花苗の鉢上げ 本学教授 南山泰宏
6	10月29日	葉根菜類の間引き、テッポウユリの繁殖 本学教授 南山泰宏
7	11月26日	葉根菜類の収穫、ヒヤシンスの水栽培 本学教授 南山泰宏

### (5) 講座の概要

- 第1回 元肥を施用して畝を整地し、スイートコーンの播種は、2条植え、株間30cmで2粒ずつ播種した。約10種類の春播きの草花の種を培養土とバーミキュライトの2段重ねにした育苗箱に播種した。
- 第2回 センターで作成している培養土の作り方を説明し、実際に自分たちで混合して培養土を作成した。9cmの黒ポリポットに培養土を入れて育苗箱で成長した苗の鉢上げをした。スイートコーンは株間30cmごとに1株となるように間引きし、化成肥料を追肥して土寄せを行った。
- 第3回 育苗箱にバーミキュライトを入れて挿し床を準備した後、センター内の植物から挿し木のための挿し穂を採取し、挿し木を行った。アサガオの苗の鉢替えをして、あんどん仕立てのための整枝を行った。
- 第4回 発根した挿し木の苗を持って帰ってもらった。栽培してきたスイートコーンの収穫を行った。
- 第5回 ひとり約2㎡の畑の畝を整地し、化学肥料を施用後、コマツナとホウレンソウとカブの種播きをした。農園芸活動支援ボランティア養成講座で播種した秋播きの草花の鉢上げを行った。
- 第6回 前回播種した野菜の観察と間引きを行った。テッポウユリの鱗片に切り込みを入れて、ポリエチレン袋とバーミキュライトを用いた簡単な鱗片培養を行った。
- 第7回 10月から栽培したコマツナ、ホウレンソウ、カブを収穫した。ヒヤシンスの水栽培用にペッ

トボトルで容器を作成し、自宅での栽培用に持って帰ってもらった。

### 3. 「農園芸活動支援ボランティア養成・春講座」

#### (1) 内容

小中学校や高齢者施設での農園芸体験の大切さが広く認識されている一方で、農園芸活動の担い手が不足している。社会貢献活動に関心の高いシニア層が、農園芸支援活動を通じて小中学校等の施設で活躍するための知識・技術を習得することを目指した。春講座では主に野菜の栽培を行った。

#### (2) 受講者

一般市民 14名

#### (3) 会場

本学 環境教育実践センター

#### (4) 講座日程と講師

回	日程	テーマと講師
1	4月26日	栽培計画の立案について 畑の準備と野菜の種まき 本学教授 南山泰宏
2	5月24日	土づくりについて 苗の定植とスイートコーンの管理 本学教授 南山泰宏
3	6月7日	果菜類の栽培管理について キュウリの誘引と整枝 本学教授 南山泰宏
4	6月28日	多様な品種について コマツナとキュウリの収穫 本学教授 南山泰宏
5	7月19日	園芸ボランティアについて スイートコーンの収穫 亀山みさ子 本学教授 南山泰宏

#### (5) 講座の概要

- 第1回 講義では、作物の栽培を始めるにあたって、いつ、どこで、何を栽培するのか、栽培前に栽培計画を立てることの大切さについて講義した。実習では、肥料を与えて畝を整え、2条植え、株間30cmで2粒ずつスイートコーンを播種し、キュウリのポット播種を行った。
- 第2回 講義では、土づくりの大切さと具体的な土づくりの方法と施肥について講義した。実習では、前回播種したキュウリの苗を畑に定植し、コマツナを直播した。スイートコーンの追肥と土寄せを行った。
- 第3回 講義では、果菜類の着果習性について概説し、苗を植え付けた後の栽培管理（整枝・剪定や追肥・灌水）の方法と重要性について講義を行った。実習では、キュウリを誘引するためのネットの設置と整枝・剪定を行った。コマツナは間引き、スイートコーン畑は除草作業を行った。
- 第4回 講義では、同じ種類の作物でも様々な特徴を持った品種があることや、在来品種とはどのようなものか、どのような地域にどのような在来品種があるのか説明した。実習では、キュウリとコマツナの収穫とキュウリの誘引と整枝を行った。
- 第5回 講義では、本講座を受講された後、ボランティアで高齢者施設で園芸ボランティアをされている亀山氏から、実際の活動の概要についてお話し頂いた。実習では、キュウリとスイートコーンの収穫を行った。

### 4. 「農園芸活動支援ボランティア養成・秋講座」

#### (1) 内容

小中学校や高齢者施設での農園芸体験の大切さが広く認識されている一方で、農園芸活動の担い手が不足している。社会貢献活動に関心の高いシニア層が、農園芸支援活動を通じて小中学校等の施設で活

躍するための知識・技術を習得することを目指した。秋講座は主に草花や葉根菜類の野菜を栽培し、堆肥づくりなども行った。

(2) 受講者

一般市民 14名

(3) 会場

本学 環境教育実践センター

(4) 講座日程と講師

回	日程	テーマと講師
1	9月13日	草花の種からの栽培 培地づくりと草花の播種 本学教授 南山泰宏
2	10月11日	草花の苗づくりと栽培計画 鉢上げと葉根菜類の播種 本学教授 南山泰宏
3	10月25日	土づくりについて ユリの繁殖と野菜の管理 本学教授 南山泰宏
4	11月15日	寄せ植えについて 寄せ植え、ヒヤシンス水栽培、葉菜の収穫 本学教授 南山泰宏
5	11月29日	園芸ボランティアについて 葉根菜の収穫と堆肥づくり 立命館大学きぬがさ農園Kreis 本学教授 南山泰宏

(5) 講座の概要

- 第1回 講義では、多様な花卉の園芸的分類と講座で栽培する秋播きの一年草について概説するとともに、本学で配合している培養土や播種と育苗方法について講義した。実習では、培養土に用いる土壌改良資材を観察した後、播種用の育苗箱を作成して、1人1種類の秋播きの花卉品種の播種を行った。
- 第2回 講義では、第1回目の講座で播種した発芽不良の原因について概説するとともに、栽培を始めるにあたって、いつ、どこで、何を栽培するのか、栽培前に栽培計画を立てることの大切さについて講義した。実習では、第1回目の講座で播種した花苗の鉢上げと、ひとり約2㎡の畑の畝を整地し、化学肥料を施用後、コマツナとホウレンソウとカブの種播きをした。
- 第3回 講義では、土づくりの大切さと具体的な土づくりの方法について概説し、秋植え球根の栽培管理方法について講義した。実習では、テッポウユリの鱗片に切り込みを入れて、ポリエチレン袋とパーミキュライトを用いた簡単な鱗片培養を行うとともに、前回播種した葉根菜類の間引き作業を行った。
- 第4回 講義では、寄せ植えの方法と植え付け後の管理について概説した。実習では、自分たちで種から栽培した花苗等を用いたコンテナへの寄せ植えと、畑で栽培した葉根菜類の収穫を行った。ペットボトルで作成した容器を用いたヒヤシンスの水栽培を行った。
- 第5回 講義では、立命館大学きぬがさ農園Kreisの学生から、園芸活動の概要についてお話し頂いた。また、家庭での生ごみなどを利用した堆肥づくりについて講義した。実習では、畑で栽培した葉根菜類の収穫と、センターで行っている落ち葉堆肥づくりや有機リサイクルシステムの様子を見学してもらった。

### Ⅲ. 公開講演会

(1) 「植物から学ぶ生物多様性」

対 象：本学教職員、学生及び一般市民

日 時：令和5年11月3日（祝）午後1時30分～午後3時

講 師：西田佐知子 名古屋大学大学院環境学研究科 准教授

要 旨：

最近よく耳にする「生物多様性」はどのように生まれるのか、また、その生物多様性から私達は何を学ぶ必要があるのかということ、実際の体験談や研究例を交えて説明した。

前半では、生物の多様性が、地理的な新天地などができた後の適応放散で生まれるほか、生物の相互作用から生まれることを簡単に説明した。そして、植物が生物の多様性を育てている例として、熱帯に生育するウツボカズラの例と、私達の周囲にも生えているクスノキの例を紹介した。ウツボカズラには、ツボの中に虫などを捉えて溶かす巧みな仕組みがあるが、そのツボの中にちゃっかり生息している新種の虫なども知られている。クスノキの葉にはダニ室と呼ばれる小さな部屋状の構造があり、それを利用することで植食性のダニと肉食性のダニが共存している。これらについて、実物の植物を見せながら説明を行った。

後半では、生物多様性の現状から学ぶべきことを説明した。まず、生物やウィルスを扱うときには、生物は進化するということを頭に入れておくべきであることを、農薬や抗生物質の例とともに説明した。さらに、生物多様性を破壊すること一すなわち自然を破壊することは、極限まで行くと人類の生存をも脅かすおそれがあることを、イースター島の例などを使って説明した。

## (2) 「都市部で体験する農作業と食育～17年間のえこそらキッズから見えたこと～」

対 象：本学教職員、学生及び一般市民

日 時：令和5年11月13日（月）午後2時～午後3時30分

講 師：山内 淳 京都市環境保全活動推進協会環境教育推進室 職員

要 旨：

2002年4月に開館した京都市伏見区の京エコロジーセンターでは、環境学習プログラムの提供及び実践、環境イベントの企画及び実施、他団体との共催で行う企画展示などを行っている。それら事業と伏見区、施設周辺の田畑の環境について紹介した。

2006年にスタートした「えこそらキッズ」のプログラムの紹介、運営内容、事業全体の目的などを現在と過去を振り返りながら説明をした。開始当初のプログラム内容、目的が変化している点などの話をし、現在の年間プログラム（遙か昔に伏見でも栽培していた記録のある藍を知ってもらうための藍染めや四季を通した米作り、野菜や果実の収穫など）を写真で紹介した。また、ボランティアの高齢化、コミュニケーションの質の向上、後進の育成などの事業の課題点などを紹介し、参加者からも意見を得た。

## (3) 「肥料価格高騰で求められる作物生産における肥料削減対策」

対 象：本学教職員、学生及び一般市民

日 時：令和5年11月22日（水）午後4時～午後5時30分

講 師：松村 篤 大阪公立大学農学研究科 講師

要 旨：

肥料は農業生産に不可欠な資材であるが、昨今の化学肥料の原料に係る国際価格の高騰に伴い生産者の経営への影響が懸念されている。肥料を海外に依存する日本のリスクが顕在化したこの状況はさらに悪化する可能性があり、食料安全保障の危機として認識する必要がある。このような背景のもと、国内で発生する廃棄物等の循環的な利用が積極的に試みられているが、研究面においても土壌の改善や肥料費の低減のため、作物を支える土壌生産力の向上と低投入型栽培に適応できる作物の改良の両側面から課題解決に向けた取組が必要となる。

本講演では、まず肥料生産の現状や課題について解説した後、これまで農業資材として未利用であった食品副産物である大豆ホエイを循環可能な有機物資源として捉え、化学肥料代替の可能性に関する研

究事例を紹介した。また、近年、土づくりや減肥の観点から再評価されている緑肥作物についても、リー混作という新たな導入法を中心にした話題で減肥効果など緑肥作物の環境負荷軽減効果について解説した。さらに、作物自身の養分獲得能を強化させることを目的に現在取り組んでいるダイズの低リン耐性強化に向けた研究について解説した。

#### IV. 附属高校の連携事業

「大学教員による、高校生のための専門講座体験」

(1) 講座名「植物の栽培化から新育種技術（NBT）まで」、南山担当

(2) 講座の概要

私たちが食べている農作物はいつ頃からどのように栽培されてきたのだろうか？野生植物から形態や生態的特性を大きく変えた栽培植物が、新しい分子生物学的な手法を利用しながら、更に改良されている現状を簡単な実験も行いながら紹介した。

(3) 日時：令和5年2月14日

(4) 受講者数：14名（附属高等学校1年生）

#### V. 環境教育有機物リサイクルシステムの運転

平成16年度に「環境教育有機物リサイクルシステム」を設置し、平成17年3月より運転を行っている。令和2年3月にはシステム老朽化のため一部設備の更新を行った。

この設備は、栽培した植物の残渣、除草した雑草、剪定した枝を粉碎したもの等の有機物を発酵槽に投入して48時間で堆肥にし、さらに、この堆肥をペレット作製機および乾燥機にかけてペレット状堆肥にするシステムで、国立の教育系大学には初めて設置されたものである。

作製した堆肥は環境教育実践センターの栽培学習園に入れて植物栽培に利用して有機物のリサイクルを実施している。授業や公開講座等の中で、受講生とともに生ゴミ等の有機物の投入やペレット状堆肥の作製等の実習を行って、こうした有機物をリサイクルすることの大切さを指導している。

#### VI. 中学生「生き方探究・チャレンジ体験」の受入

(1) 目的

「生き方探究・チャレンジ体験」は地域社会との連携をもとに教育の推進を図り、生徒自らの希望に基づいて、広く社会に出て、様々な体験活動や多くの人達とのふれあいを通して、自分を見つめ直し、よりよい生き方を考え、将来を切り拓いていく力や態度を養成する京都市立中学校・京都市教育委員会の事業である。本センターは京都市教育委員会協力事業所として中学生を受け入れて、協力している。

今年度は京都市立中学校4校の中学生を受け入れた。

(2) 受入対象人数、及び期間

京都市立西ノ京中学校 令和5年5月23日～5月26日（9時30分～15時）

2年生 女子1名、4日間、延べ4名

京都市立向島東中学校 令和5年6月7日～6月9日（9時30分～15時）

2年生 男子2名、3日間、延べ6名

京都市立藤森中学校 令和5年10月30日～11月2日（9時30分～15時）

2年生 男子3名、女子2名、4日間、延べ20名

京都市立桃山中学校 令和5年11月7日～11月10日（9時30分～15時）

2年生 男子3名、女子2名、4日間、延べ20名

(3) 会 場

本学 環境教育実践センター

(4) 担 当

南山、辻、志賀

(5) まとめ

本センターの圃場や温室、実験室などでのいろいろな作業を中学生に経験してもらうことで、事業の推進に協力することができた。

## Ⅶ. バイオマス利活用システムの運転と活用

構内で発生する樹木剪定枝等を粉砕した木質有機物（バイオマス）からペレット燃料を作成し、電気エネルギーを用いずに、本センター内の暖房を行っている。バイオマスの有効な利活用を通じて「資源の循環」の大切さを示し、ペレット燃焼灰は栽培学習園の土壌改良材として用いている。また、栽培学習園では、植物の生産－利用－残渣の堆肥化－生産という「食の循環」を実践しており、樹木の剪定枝等も堆肥化を行っていたが、本システムにより樹木の剪定枝等の木質有機物を堆肥化するだけでなく、エネルギーとしてのバイオマス利活用を示して、樹木の生産－不要部分の利活用－部屋の暖房－燃焼灰の施用－生産という「資源の循環」を実現して、学生や公開講演会の受講生等に啓蒙している。

## Ⅷ. 地域ボランティアの受入

地域のボランティアによる環境教育実践センターの栽培学習園や建物の周囲等の除草、培養土づくり、草花苗や野菜苗の鉢上げ、ラン鉢の植え替え、ジャガイモ、サツマイモ管理、ネギ植えつけ、樹木の名札整備、落ち葉集め、花壇への草花の植えつけ等の作業への協力が行われた。今年度は数名の方が、月に1回程度の活動を実施された。

京カレッジの受講生のうち数名のボランティアによって、夏休み（8～9月）、春休み（2～3月）において農業実習Ⅰ、農業実習Ⅱで栽培している植物への管理作業や休み中における植え付け等の活動が実施された。

## Ⅸ. 2023年度 環境教育実践センター利用状況

(2023年12月31日現在)

### 1. 授業・実習等（回数104、延べ1,549名）

- 1) 農業実習Ⅰ・学校園における農園芸実習Ⅰ（南山）48名受講、15回、延べ720名  
本学学生24名（教育学専攻2名、英語領域専攻5名、理科領域専攻1名、技術領域専攻9名、留学生7名）、科目等履修生1名、京カレッジ受講生23名
- 2) 農業実習Ⅱ・学校園における農園芸実習Ⅱ（南山）30名受講、15回、延べ450名  
本学学生10名（理科領域専攻1名、留学生9名）、本学院生1名（教科学習探究コース1名）、京カレッジ受講生19名
- 3) スタートアップセミナー（南山）9専攻（各専攻1回ずつ）、延べ 227名  
本学学生227名（教育学専攻30名、幼児教育専攻20名、発達障害教育専攻13名、国語領域専攻23名、英語領域専攻25名、数学領域専攻30名、理科領域専攻45名、技術領域専攻21名、家庭領域専攻20名）
- 4) 小学校理科教材論B（南山他3名）9名受講、3回、延べ27名

本学学生9名（理科領域専攻9名）

- 5) 植物組織培養論（南山）3名受講、2回、延べ6名  
本学学生2名（理科領域専攻1名、技術領域専攻1名）、科目等履修生1名
- 6) 園芸と環境Ⅱ（古平）3名受講、12回、延べ36名  
本学学生3名（理科領域専攻1名、技術領域専攻2名）
- 7) 環境園芸学演習Ⅱ（南山）2名受講、15回、延べ30名  
本学学生2名（技術領域専攻2名）
- 8) 環境園芸学実験実習（南山）2名受講、15回、延べ30名  
本学学生2名（理科領域専攻1名、技術領域専攻1名）
- 9) 教科内容構成論 -技術科-（南山他4名）3名受講、2回、延べ6名  
本学院生3名（教科学習探究コース3名）
- 10) 教科内容教材論 -技術科-（南山他4名）2名受講、1回、延べ2名  
本学院生2名（教科学習探究コース2名）
- 11) 実践課題研究Ⅰ（南山）1名受講、15回、延べ15名  
本学院生1名（教科学習探究コース1名）

## 2. 公開講座（回数24回、延べ259名）

- 1) 「農園芸活動支援ボランティア養成・春講座」  
受講者数：14名（計5回、延べ70名）  
（令和5年4月26日から7月19日まで一般市民を対象に実施）
- 2) 「いろいろな野菜を育てて、食の大切さを学ぶ講座」  
受講者数：4組8名（計7回、延べ56名）  
（令和5年4月30日から11月26日まで小学生とその保護者を対象に実施）
- 3) 「幼稚園・保育園での草花・野菜の栽培のための実技講座」  
受講者数：9名（計7回、延べ63名）  
（令和5年4月30日から11月26日まで幼稚園教諭・保育士を対象に実施）
- 4) 「農園芸活動支援ボランティア養成・秋講座」  
受講者数：14名（計5回、延べ70名）  
（令和5年9月13日から11月29日まで一般市民を対象に実施）

## 3. 公開講演会（回数3回、延べ53名）

- 1) 「植物から学ぶ生物多様性」受講者数：22名
- 2) 「都市部で体験する農作業と食育～17年間のえこそらキッズから見えたこと～」受講者数：16名
- 3) 「肥料価格高騰で求められる作物生産における肥料削減対策」受講者数：15名

## 4. 学内及び附属学校園の利用（延べ225名）

- 1) 附属幼稚園：ジャガイモ、サツマイモ、収穫及び見学（延べ210名）
- 2) 附属高等学校：大学教員による、高校生のための専門講座体験（15名）

## 5. 学外の利用（延べ1,090名）

- 1) ジャガイモ、サツマイモ栽培、収穫及び見学  
市内幼稚園（京都聖母学院幼稚園、西福寺幼稚園、聖ドミニコ学院京都幼稚園、竹田幼稚園、伏見板橋幼稚園、伏見住吉幼稚園、楊梅幼稚園、西院幼稚園）、保育園（墨染保育園、住吉西保育園、み

どり保育園)、児童館(深草児童館)、延べ17園 824名

2) 「生き方探究・チャレンジ体験」受入

京都市立西ノ京中学校、京都市立向島東中学校、京都市立藤森中学校、京都市立桃山中学校、中学生13名、延べ50名

3) 「オレンジガーデニングプロジェクト活動」への協力

認知症啓発のシンボルカラーであるオレンジ色の花を育てる活動の支援

京都市環境保全活動推進協会 8名

4) 「中京・花とみどりの会」によるミツバチ採蜜体 15名

5) 第57回近畿地区教育系大学農場等協議会での見学 8名

6) ボランティアによる活動受入、延べ185名

6. 学校園の緑化への協力(藤森学舎、附属学校園、市内学校園)

花壇用草花苗、鉢物、樹木苗木の提供、花壇の管理、指導

7. 利用者合計 3,176名